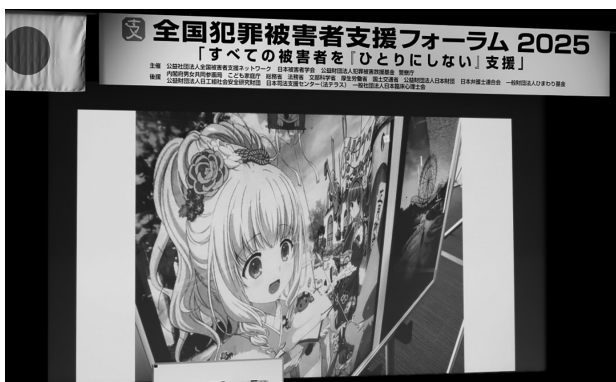


被害者の声

## おも 想いと願い

講演者 渡邊達子さん 渡邊勇さん



**渡邊達子さん**：どうぞ初めまして。みなさまの犯罪被害者支援のおかげで裁判にも参加できました。いろいろありがとうございました。

なんで、こういう講演を始めたかという、カウンセラーさんに「してみいひんか」とお誘いを受けたからです。今もカウンセリングを受けていて、ほんとに助けてもらっています。割と正常でいられたのは、そのおかげだと思っています。

被害者家族になった日からお話ししていこうと思います。「お母さん、えらいことになってる」「京都アニメーションが燃えてるって、テレビで報道している」とお嫁さんから聞いて知ったんです。娘（被害者の渡邊美希子さん）のスマホにいくら連絡してもつながらない。何かあったら会社から連絡が来ると言われたけれど、もう気がせいせいで。家で待ってるなんて、ようせいへんと家族LINEで流したんです。「あの子の様子を見に京都に行きたい」って。上の娘（美希子さんの姉）から連絡が来て「お母さん一人で行かすのは危険やから待ってなさい」っ

て言われました。

その上の娘もやっぱりパニックしているので、運転せんほうがいと電車で京都へ向かったんです。現場は消防車がいっぱい来てて邪魔になるだけやろうし、（宇治市の）京アニの本社の方へ行きました。電車の中でもスマホはつながらないし、悪い想像が思わず口から出て、娘に「お母さん、いらんこと言わないの」って怒られてしまいました。

本社の前は報道の方が脚立を並べていて、声をかけてきました。入り口を開けた途端、聞こえてきたのは嗚咽おえつです。何人も泣いてやる。電車の中でいらんことを言った一番悪いケースかもしれないと思いました。上の階へ案内してもらい待っていたんですけど、階下では警察や消防の人が出入りしていました。だいぶ経って現場から帰ってきた社長が上がってこられた。娘は気丈にも「病院に行ってる人の名前はわかっていますか」「みっこは、その中に名前ありますか」って聞いたら、無言で。

あの子の部屋に行こうとしたら、娘は背景室の室長だったものですから、同じ仲間たちが「もうホテルを予約しました」と言うんです。そういう仲間がいる会社に、娘は勤めていたんだなって思いましたね。

次の日の朝早く、DNA鑑定をしに来てくださいと連絡をいただきました。鑑定の後、家へ帰る時に付き添ってくださった被害者支援の方に「遺体を置いてある場所は？」って聞いたんですね。そしたら「あちこちにあるのでわかりません」って。鑑定結果の連絡をもらったのは1週間後ぐらいでした。それで、あの子に会いに行った

んです。夫は「骨格が美希子や」、息子は「むごい」とだけでした。私は「隠さなあかん」と思ったんです。可愛かったあの子のこの姿を、親戚や友達に見せるわけにはいかんと。家に連れて帰らず葬儀場に行って、お葬式の段取りをしました。暑かったから、どれほどドライアイスがいったか。葬儀社の方は小まめに変えてくださって。京ア二の仲間たち、警察や消防の方たちに、すごくお世話になったなと思います。

そのあとですよ。「実名報道されますか」という連絡をいただきました。夫は「逃げ隠れする必要なんかないやろう」「いいですよ」って。娘と親元は別の住所なのに、なぜかマスコミの方々が我が家に見えるようになりました。手紙もいただきました。ほとんどが若い記者でした。最初の頃、つらく悲しいのは当たり前や、そんな記事なんかいらんと思っていたんです。そしたら、近くの角っこで我が家に向いてたたずんでやるのを夫が見つけたんです。「気にならへんのか」って、夫がちょっときつめに言ったので、私は母親だと名乗って、熱中症になる前に帰って話しました。ついでに「ここへ来て取材するんじゃないか、何でこんなことが起こったのか調べて書くのが報道のお仕事違うんか」って言ったんです。その日は知らなかったんですけど、何年か経ってご近所さんから、その記者は我が家のほうを向いて随分長いことお辞儀してやったと聞かされて、言い過ぎたかなと思いましたね。

家族間では甘えが出てしまうので、夫と私の間で、どっちが悪いとかじゃなくて、きつめに言ったらケンカになりそうなことが何回かありましたね。人さまから聞いたことはあったんですけど、「これがそれか」と思いました。

娘の部屋を引き払おうと片づけに行きました。物の置き方が家族の誰とも違って「ああ、これはみっこの置き方」って感じてしまうので、片付けが嫌でした。娘の自転車がいないのに気がついて駅の交番へ行ったら、何時間かしてからお巡りさんが「自転車、持ってきました」って。それから、現場で燃え切らなかった物を届けにきてくださいましたね。

新聞に京ア二の事件の記事が出ていると、その紙面を残すようになりました。第1スタジオが燃えてる映像は見ない方がいいと思うんですけど、ニュースに目が吸い寄せられてしまっは、一人ウツとやっていました。

事件から1年が経った頃でしょうか。裁判所に被告が出廷すると検察の方から連絡いただいたので、夫と2人で行ったんです。被告が名前を言っているのを聞きました。しっかり声が出るんだな、これなら裁判で証言できるなと思いました。

2年目ぐらいに、講演したらどうかとお誘いを受けました。周りの優しい、あったかい人たちに支えられて、入院もせずにやっけていけるので、お引き受けしたほうがいいかなと、息子と2人で話して決めましたが、それまでに2週間ぐらいかかりましたっけ。カウンセリン

グの重要性を感じた2年間でした。

私は以前、子どもたちにかかわる仕事をしていて、あるお母さんの言葉が忘れられないですよ。「生きてるだけで丸もうけ」って。

世の中、誰もが自信を持って生きていける社会で、強く優しい人が多かったら、事件はちょっとでも減るのかなって思ってます。誰もが生きやすい世の中とか、社会とかは、我々がつくるものだろうと思っています。

**渡邊勇さん**：母と2人で話す理由の一つは、家族なんですけれども、それぞれが感じていたことや置かれた状況がちょっと違うことも伝えていければいいかなと思うからです。被害者それぞれにそれぞれのケースがあります。京ア二事件の被害者遺族ですけど、決して代表的な存在ではなくて、本当にいろんな方々がしんどい思いをされています。

私は仕事で、家族のグループLINEで知った時はボヤぐらいい思ったんです。けど、そうではないとだんだん知ることになりました。母が現地に行く時、私も飛んでいきたかったけれど、1歳の子どもがいて妻も身重だったので、自宅で情報を待つことにしました。これも結構しんどくて、嫌な情報ばかり流れてきて、不安にさいなまれました。最も望まない結果を聞いた時、経験したことの無い感情に襲われました。

我が妹ながらいい子なんです。事件の半年前、僕が大阪から滋賀県にUターンした時に「兄さんや奥さんが近くにいてくれて、お母さんやお父さんも安心していると思います。ありがとう。私は仕事にばかり集中させてもらって、今の環境には感謝しきりです」といったLINEを送ってくれました。家族思いの妹なんです。けれども、こんなふうになってしまって、すごく理不尽な感覚にもなりました。

僕はカウンセリングを断ったんです。自分が崩れてるのが怖かったというか、認めたくなかった。みんなしんどい状態になっているので、僕は凜としていようと思ったんです。けれども、コロナ流行の時に37.5度以上の熱がずっと出て、人と会えなくなりました。1歳の子と身重の妻がいて、70代の両親が隣にいる状況で心がつぶされそうになりました。コロナは致死率が高いというので、隔離の形で過ごしてた時期があります。わらをもすがる思いで心療内科に行き、カウンセラーさんから精神的なショックで体温が上がるがあると教えていただきました。それを聞いて熱は下がったんです。心が体に与える影響は大きいと感じました。

その後の裁判で忘れられない被告の言葉あります。「まあ、数人は亡くなると思ってたけれども、上の階とかにいた人たちは運がなかった」って。体が不自由になって助けてもらっていることに感謝を口にし、「今のよう環境だったなら事件は起こさなかった」とも。拘置所で幸せだと言っていることに、どうしたらいいんや、と

思いました。

加害者も被害者も生み出さない社会や世界に少しでも近づいてほしいというのが、今の願いです。だれもこんな思いをしてほしくないです。

講演にあたって、「ありがとう」と伝える「サンキュー

レター」が入った袋を配っています。人と人が良い関係を作ることで、事件はちょっとでも減るのかなという願いを込めています。彼を許すのは難しいけれども、こういう事件が起きるような環境や人間が少しでも減るようにと、講演も含めてやっていけたらと思っております。

### 【被害者の声アンケート】

- アニメーションの画像に涙が止まりませんでした。報道が犯罪や犯罪被害をどう伝えるべきか、被害者支援と加害者を生まない社会をどう作り出していくのかと、示唆に富む講演だったと感じました。
- ありがとうございました。講演を通じて多くのことを感じ、考えさせられましたし、決して繰り返してはならないと強く感じました。カウンセリングの重要性について話してくださいましたが、支援者ができること、課題も考える機会になりました。
- お母さまのお話はたいへん心に響きました。時にとつとつと率直にお話される言葉の重みに母の思いとつらさがあふれているように感じました。お兄様は時間の都合で短いお話でしたが、妹さんへの思いの深さがあふれていました。講演を聞かせていただきありがとうございました。
- お兄さんのお話はとても心に残りました。感情をおさえてお話しすることがより悲しさや苦しさが表現できていて、聞いている側の心が痛みました。当日の様子、自身の行動、思いを話されていて、よくわかりました。周りの人に助けられて今まで気持ちを乱さず生きてこられたことを話されていたことが、印象に残っています。次世代を生きるこどもたちへのメッセージ、受取りました。
- ご遺族によるご講演はとても頭の下がる思いで聞かせていただきました。家族間でも受け止めの違いがあり、様々な葛藤をかかえながらそれでも前をむいて、おひとりおひとり歩いているんだなと思いました。支援が広く多くの人に行き届き、犯罪や被害者を出さない社会を願ってらっしゃると感じました。

[Redacted text block]

[Redacted text block]

[Redacted text block]

[Redacted text block]